

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0466

平成31年度行政事業レビューシート (国土交通省)										
事業名	国土交通省所管事業者等への情報セキュリティ対策経費			担当部局庁	総合政策局			作成責任者		
事業開始年度	平成28年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	情報政策課サイバーセキュリティ対策室			課長 橋本 亮二		
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	サイバーセキュリティ戦略					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	サイバー犯罪・サイバー攻撃が複雑化・巧妙化する中、サイバー攻撃等に起因する重要インフラサービス障害の発生を可能な限り減らすとともに、その発生時には迅速な復旧を図ることにより、国民生活や社会経済活動に重大な影響を及ぼすことなく、重要インフラサービスの安全かつ持続的な提供を実現することが重要である。そのため、重要インフラ事業者を含む所管分野の事業者がセキュリティの意識の向上やサイバーセキュリティ対策を自主的に取り組んでいくことが不可欠であり、これらの取組みを進めるため、国が積極的な支援に取り組み、官民が一体となって国民が安全で安心して暮らせる社会の実現を目指すもの。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	サイバー空間と実空間との一体化が進展する中、重要インフラ事業者だけでなくそれ以外の事業者に対しても、深刻な影響が生じる可能性が高まることから、重要インフラ以外の事業者が実施すべき情報セキュリティ対策をまとめたセキュリティチェックリストを作成し、サイバー攻撃に対する情報セキュリティ対策の早期実施を促す。 サイバーセキュリティ対策を確保するためには多様な主体が連携することが重要であることから、従来の枠を超えた情報共有・連携体制を構築するために、所管重要インフラ事業者(航空・空港・鉄道・物流)において、事業者自らが有事の情報共有や平時の知見共有を行い、情報の分析及び対策の検討を行うべく、国が積極的な支援を行う。									
実施方法	委託・請負									
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算状況	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求				
		当初予算	7	8	5	14	6			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計	7	8	5	14	6				
	執行額	6	8	5						
	執行率(%)	86%	100%	100%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	86%	100%	100%							
平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由						
	情報処理業務庁費	14	6	平成31年度をもって所管重要インフラ事業者(航空・空港・鉄道・物流)における情報共有・分析及び対策の検討を行うための体制(交通ISAC)の創設に向けた検討の支援を終了する。平成32年度は重要インフラ事業者以外の事業者へのサイバーセキュリティ対策として、平成29年度に作成したセキュリティチェックリストの内容の見直しと新たに2分野のチェックリストを作成する予定。						
	その他	0	0							
	計	14	6							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 年度	目標最終年度 29年度	
	国土交通省所管事業者等に対して実施した情報セキュリティ調査をもとに各事業者等の特性や傾向等を反映したセキュリティチェックリストを3件作成する。	セキュリティチェックリストの作成件数	成果実績	-	-	4	-	-	4	
			目標値	件	-	3	-	-	3	
			達成度	%	-	133	-	-	133	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の周辺環境を担う国土交通省所管事業者のうち、重要インフラ事業者と比較して情報セキュリティ対策が不十分であるバス事業者や宿泊施設等において情報セキュリティインシデントが発生し、提供するサービスの停止等による利用者への影響が生じないようにすることを目的とし、当該事業者が情報セキュリティ対策を講じるに当たり、実施すべき対策水準の指標として参考活用してもらうため、共通編、各分野編(バス事業者)、各分野編(宿泊施設等)、の3種類のチェックリストの作成を目標とした。									
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 年度	目標最終年度 32年度	
	所管重要インフラ事業者における国民生活・社会経済活動に重大な影響を及ぼすIT障害発生件数について、限りなくゼロとすることを旨とする。	所管重要インフラ事業者における国民生活・社会経済活動に重大な影響を及ぼすIT障害発生件数	成果実績	-	-	0	2	-		
			目標値	件	-	0	0	-	0	
			達成度	%	-	100	0	-		

根拠として用いた統計・データ名(出典)		近年、所管重要インフラ分野においてもITの利活用が急速に進展してきており、それに伴いIT障害発生リスクも高まってきている。そのため、豊かな国民生活の実現、並びに経済社会の活力の向上や持続的発展において、IT障害を確実に防止するための施策を行うことは極めて重要であると考えており、今後も継続的な取り組みが必要なため、国民生活・社会経済活動に重大な影響を及ぼすIT障害発生件数を限りなくゼロとすることを旨とし、目標値を0件として設定した。							
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	32年度活動見込	
	国土交通省所管事業者等に対する情報セキュリティ調査を実施する。	活動実績	件	84	-	-	-	-	
		当初見込み	件	60	-	-	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	32年度活動見込	
	国土交通省所管重要インフラ事業者等における情報セキュリティ調査を実施する。	活動実績	件	-	46	-	-	-	
		当初見込み	件	-	53	-	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	32年度活動見込	
	国土交通省所管重要インフラ事業者等における情報共有体制等の検討のため、検討会等を実施する。	活動実績	件	-	-	35	-	-	
		当初見込み	件	-	-	25	40	-	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込		
	執行額/調査件数	単位当たりコスト	円	71,429	-	-	-		
		計算式	/	6百万/84件	-	-	-		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込		
	執行額/調査件数	単位当たりコスト	円	-	173,913	-	-		
		計算式	/	-	8百万/46件	-	-		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込		
	執行額/検討会等実施件数	単位当たりコスト	円	-	-	142,857	-		
		計算式	/	-	-	5百万/35件	-		
政策評価、新経済	政策	11ICTの利活用及び技術研究開発の推進							
		42情報化を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標年度	目標年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
国土交通省及び交通分野における国民生活・社会経済活動に重大な影響を及ぼすIT障害の発生を防ぐことにより国民生活・社会経済活動の安全を保つことを目標としており、本事業によって各事業者のサイバー攻撃に対する対処能力を強化することにより、IT障害の発生抑止に資する。									

・ 財政再生計画との関係	新経済・財政再生計画改革工程表 2018	取組事項	分野:	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	30年度	31年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
		(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	30年度	31年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
		本事業の成果と取組事項・KPIとの関係								
-										

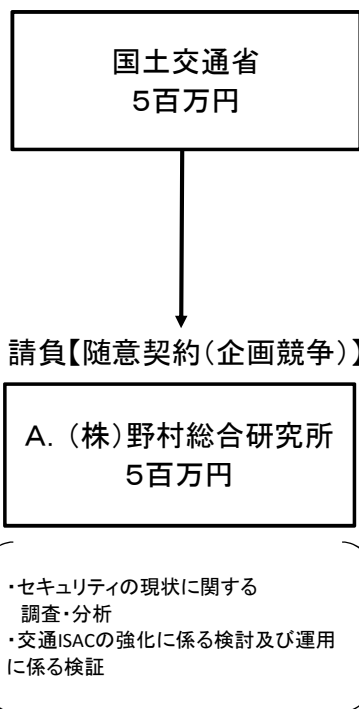
事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた情報セキュリティの確保と、国民生活の安全や経済社会の持続的発展のため重要インフラ事業者による有事・平時の情報共有・知見共有等の体制構築を目的とした事業であるため、国民及び社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	東京オリンピック・パラリンピック競技大会における情報セキュリティが確保されなければ国の威信を大きく損なう恐れがあること、また、近年の高度化・巧妙化したサイバー攻撃に平時から備えなければ国民生活や社会経済活動に多大な影響をおよぼしかねないため、事業者等の情報セキュリティ対策として国が実施すべきものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	有事・平時の情報共有体制の検討は、事業者の対策強化に資する必要かつ適切な事業であり、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が間近に迫っていること、また、近年の政府機関や企業等を狙ったサイバー攻撃が複雑化・巧妙化していることから優先度が高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調査業務について、随意契約(企画競争)で実施したところ、結果として一者応募となったが、参加資格要件等は必要最小限のものであり、競争を阻害する特別な事由はないものとする。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	検討会等実施件数から得られた結果の有用性も含めて総合的に勘案し、単位当たりコストについては妥当な水準であると考える。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	重要インフラ事業者のセキュリティの現状に関する調査・分析と情報共有体制の係る検討と、必要最小限の事業内容となっている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		×	重大な影響を及ぼすIT障害が2件発生していることから「できていない」と評価した。しかし、今年度も引き続き設定すべき目標であるとする。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	事業者における講ずべき対策について、有事の情報共有、平時の知見共有という観点で、重要インフラ事業者自らが連携する体制の構築は、効果的である。			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	重要インフラ事業者における情報共有体制の検討のため、検討会等の開催予定件数25回に対し、開催件数35回となっていることから、十分な水準と考える。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-			
	所管府省名	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果	東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた情報セキュリティの確保を目的とした事業として、重要インフラ事業者による有事の情報共有や平時の知見共有の体制の構築に向けて検討は進んでいるが、国民生活・社会経済活動に重大な影響を及ぼすIT障害発生件数が平成30年度に2件発生した。					
	改善の方向性	重要インフラ事業者による有事の情報共有や平時の知見共有の体制構築に向けて検討を進めるとともに、分野横断的に情報共有活動を行うためのWGを開催するなど、引き続き、国土交通省が所管する重要インフラ事業者等の情報セキュリティ対策に積極的に取り組み、国民生活・社会経済活動に重大な影響を及ぼすIT障害発生件数が来年度以降限りなくゼロとなるよう取組を進める。					
外部有識者の所見							
重大な影響を及ぼすIT障害が平成30年度に2件発生したとのことだが、チェックリストの作成など本事業の活動成果は同事故の防止に有効な施策であるか否か、アウトカム指標の設定が妥当か否か、検証すべきかと考えます。							
行政事業レビュー推進チームの所見							
事業内容の一部改善	サイバー攻撃が複雑化・巧妙化しており、その結果、平成30年度に障害が発生していると考えられることから、所管事業者の自主的な対策の取組やセキュリティ意識の向上を進めるために、交通ISACの枠組みの創設、最新のサイバー攻撃の動向を踏まえたチェックリストの内容見直しや新たな分野の作成など、引き続き情報セキュリティ対策の強化を推進すべき。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
執行等改善	重大な影響を及ぼすIT障害の防止については、交通ISACの創設が有効な施策であることから確実に創設されるよう取り組んでいく。また、セキュリティチェックリストの活用は、事業者自らの対策の向上を促進し、当該障害の防止に有効な施策である。令和2年度概算要求において、チェックリストを見直し・作成するための経費を計上した。なお、アウトカムの設定については、IT障害を防止するという施策の趣旨に鑑みると、重大な影響を及ぼす重要インフラ事業者のIT障害発生件数を限りなくゼロとする従前のものとした。						
備考							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	新28-0056	平成28年度	新28-0056	平成29年度	0459
平成30年度	国土交通省 (0459)						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	調査業務経費	5			
計		5	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)野村総合研究所	4010001054032	調査業務	5	随意契約 (企画競争)	1	100%	

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0467

平成31年度行政事業レビューシート (国土交通省)									
事業名	都市行政情報データベース運営経費			担当部局庁	都市局				
事業開始年度	平成14年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	都市計画課				
作成責任者	課長 楠田 幹人								
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	行政や民間の諸活動の基盤となる土地利用規制や都市インフラに関する基礎的な情報である都市計画データを中心とした、都市行政に関する各種データを収集・整理・集約化し提供する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	本業務は今後の都市行政に資するため、全国の都市計画のデータを中心としたデータベースの運営・改良及びデータを集約化し、その提供を行うものである。 当該データは都市計画を中心に87の項目をデータベース化しており、例えば全国1,010ある都市計画区域内の各都市の用途地域の面積や道路、公園等の都市施設の計画・供用の状況、7,000を超える地区計画の決定状況等が収録されている。 当該データは、都市間の比較や事業の進捗状況等について網羅的に知り得ることが出来る唯一の資料となっており、地方公共団体をはじめ大学及び研究機関等にも幅広く活用されているところである。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	4	4	4	4	4		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計	4	4	4	4	4			
	執行額	2	3	3	-	-			
	執行率 (%)	50%	75%	75%	-	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	50%	75%	75%	-	-			
平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由					
	(目)情報処理業務庁費	4	4						
	計	4	4						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	都市行政データの安定的な提供を維持するため、成果指標としてホームページへの過去最高アクセス数を更新していくことを毎年の目標とする。	都市計画現況調査のホームページアクセス数(PV数:ページビュー数)	成果実績	PV/年	-	22,612	24,027	-	-
			目標値	PV/年	-	-	22,612	-	-
			達成度	%	-	-	106.3	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	都市計画現況調査(国土交通省都市局調べ)								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込		
	都市行政情報データベース改修・運営業務発注件数								活動実績	件
			当初見込み	件	1	1	1	1	1	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込			
	支出額 ／調査件数						単位当たり コスト	百万円	2	3
			計算式	百万円 /箇所数	2/1	3/1	3/1	4/1		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	11 ICTの利活用及び技術研究開発の推進								
	施策	42 情報化を推進する								
	測定指標	定量的指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
			実績値	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	都市行政情報データベースの改修・運営を通じて、都市計画を中心とした情報のデータベース化を促進し、情報化の推進に寄与する。									
	新経済・財政再生計画改革工程表 2018	取組事項	分野:	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	30年度	31年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
				成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	30年度	31年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-		
	達成度	%	-	-	-	-	-			
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明				
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	都市行政に関する各種データの収集・整理をすることは、都市計画を中心とした情報の集約化及びその提供を求める地方公共団体等関係機関のニーズを的確に反映している。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	都市計画に関する基礎データを全国規模で収集・集計を行う業務であり、国において実施するのが妥当である。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	当該データは、都市間の比較や事業の進捗状況等についても網羅的に知り得ることが出来る唯一の資料であり、都市行政の円滑な遂行に必要である。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	平成22年度より企画競争から一般競争へ移行し、競争性の確保に努めている。				
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。</td> <td style="width: 50%;">無</td> </tr> <tr> <td>競争性のない随意契約となったものはないか。</td> <td>無</td> </tr> </table>	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	無
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無					
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	一般競争により、単位当たりコスト等の水準の妥当性は保たれている。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-					
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	都市行政に関する各種データの収集・整理に必要なものに限定している。				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	一般競争入札の結果、当初想定していた予定価格よりも安価で落札されたため。					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-						
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	毎年度成果目標を達成している。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	都市計画現況調査のWEB入力対象自治体数(市町村)の見込みと実績は一致している。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	とりまとめたデータは国土交通省のHPIにて公開している。				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-					
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 15%;">所管府省名</th> <th style="width: 20%;">事業番号</th> <th style="width: 65%;">事業名</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	所管府省名	事業番号	事業名			
所管府省名	事業番号	事業名					
点検・改善結果	点検結果	本経費については、平成22年度より、企画競争から一般競争入札に変更し、より一層の経費の削減に努めているところである。					
	改善の方向性	引き続き、一般競争入札を行い、経費の削減に努める。					

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

一 事
部 業
改 内
善 容

引き続き、地方公共団体や、大学及び研究機関等が抱える都市集約化等の政策課題に対応可能なデータ活用基盤の構築に努めるべき。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執 行
善 等
改

必要に応じ調査項目を見直すなど、都市計画行政に関するデータ活用基盤の構築に努める。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度		平成23年度	152	平成24年度	156	平成25年度	464
平成26年度	445	平成27年度	458	平成28年度	472	平成29年度	459
平成30年度	国土交通省 (0460)						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

